

「能登半島地震に係る市長との対話集会」対話要旨（主なもの）

日 時：令和7年8月23日（土）午後2時～午後3時40分

場 所：吉久公民館

質問

被害の著しい奥能登の自治体と情報共有し、連携してはどうか。

回答

奥能登の自治体は、未だ大変な状況におかれているため、先方の取組みについては、国や県を通じ、可能な限り情報収集している。能登の経験からも学び、参考にできるところは参考にしていきたい。

質問

今後の地震への備えとして、取り組んでいることはあるか。例えば、住民の安心確保のためには、迅速な仮設住宅の建設が必要と考えており、その敷地確保のため、事前協定を結んでは。

回答

各地区において地区防災計画を策定中であり、現在、課題の洗い出しを進めているところである。万が一の地震への備えに関する意見として参考にしたい。

質問

支援物資の輸送などについて、他自治体と連携する体制を整えてほしい。

回答

参考にしたい。

質問

液状化被害宅地復旧支援事業（補助限度額：766.6万円）の活用は、面的な液状化対策の実施よりも優先すべきか。

回答

面的な液状化対策は、地域の防災力を向上させるものであり、検討に長い期間を要するうえ、住民の合意などを理由に実施に至らない場合がある。このため、個々人で液状化対策ができる液状化被害宅地復旧支援事業^{*}を優先して検討いただくことをお勧めしている。

※現時点では、令和8年3月31日までに完工届の提出が必要

質問

復旧が進んでいない中で、復興の話しをされても全くイメージできない。先日の大雨でも床下浸水となっており、一日も早く、被災した雨水幹線を復旧してもらいたい。

回答

雨水幹線の復旧工事については、受注者が決定し、現在、施工計画中である。復旧までには時間がかかるが、全力で取り組む。なお、応急的な浸水対策として、仮排水路側壁のかさ上げを早急に行いたい。

質問

雨水幹線の復旧見通しは。また、当該幹線の小矢部川からの逆流対策として、水門や排水ポンプを設置してほしい。加えて、同地区内の水路の老朽化や狭小箇所対策をしてほしい。

回答

まずは、雨水幹線を令和8年度末までに復旧完了できるよう、全力で取り組む。

質問

面的な液状化対策の維持管理費に係る住民負担ゼロについて、市長就任後もスタンスに変わりはないか。また、維持管理費の発生時期は。

回答

維持管理費を対象住民に求めないというスタンスに変わりはない。一方で、高岡市としての維持管理費負担軽減のため、液状化被害を受けた県内の4市と足並みを揃えて、国・県に財政的な支援を求めている。

また、維持管理費の発生時期は、工事完成時からを想定しているが、今後、試験施工の実施や住民合意を経る必要があり、現時点で明言できない。